

新
お
ま
り

秘

新
領
土
の
お
ま
り
の
お
ま
り

内
務
大
臣

Blank lined page with faint bleed-through text from the reverse side.

拓殖調査會設置ノ件



拓殖調査會設置ノ件

拓殖調査會設置ノ件

請議案

拓殖調査會設置ノ件

吾新領土ノ施政ニ関シ中央政府ニ特殊ノ機關ヲ設ケタルハ臺灣領有ノ當時拓殖務省ヲ置キタルニ初マル再來一方ニ數次ノ行政整理アリ他方ニハ樺太、朝鮮及関東州ノ新ニ吾統轄ノ下ニ屬スルアリ中央ニ於ケル拓殖行政ノ部局モ亦之ニ伴フテ幾變遷ヲ經、即チ台湾事務局トナリ台湾課樺太課トナリ内閣拓殖局トナリ大正二年又之ヲ廢シテ其ノ関東州ニ関スル事項ハ外務省ニ、朝鮮、台湾及樺太ニ関スル事項ハ内務省ニ屬セシメ而シテ内務省ニ於テハ地方局ニ拓殖課ヲ置キテ其ノ事務ヲ分掌シ以テ今日ニ至レリ然レトモ拓殖課ナル一課ヲ以テ

朝鮮、台湾及樺太ニ関スル百般ノ事項ヲ掌理スルニハ其ノ組織甚々小ニ過クルヲ以テ新領土施政統一ノ實ヲ擧クルコト困難ニシテ自ラ單純ナル經由機關ニ過キサレモトナレルノ嫌ナキニ非ヌカ之類敏系ナル内閣ノ更迭ニ伴ヒ新領土統治ノ方針モ亦其ノ都度多少変更スル所アリ從テ實際ノ政策ニ幾分カ一進一退アルヲ免レサルノコトラス新領土ノ人心ヲシテ疑懼ノ念ヲ生セシムルノ虞ナシト為サス依テ内務大臣ノ監督ノ下ニ合議制ノ中心諮問機關ヲ設ケ朝鮮、台湾及樺太ニ関スル重要ノ事項ハ先ツ其ノ意見ヲ徵シテ之ヲ決スルコトトセハ一方ニ於テハ朝野ノ衆智ヲ聚メラテ權威アル監督ノ實ヲ擧クルヲ得ルト共ニ他方ニ於テハ新領土ニ對スル統治ノ方針ヲ

一貫シ新附ノ民ヲ御シ新版圖ヲ開發スル上ニ於テ大ナル效果アルヘシト信ヌ加之昨春明治三十九年法律第三十一號改正法律案（台湾總督ニ律令制定權附與ノ年限延長）議會ヲ通過スルニ方リ政府ハ衆議院ニ於テ律令諮問機關ヲ設置スヘキ旨ヲ宣明シタリ然レトモ諮問機關ヲ台湾總督府内ニ設ケルハ曾テ廢止シタル台湾總督府評議會ヲ再興スルモノニシテ徒ニ舊套ヲ及西復スルニ過キス忠孚ロシテ中央ニ置キ其ノ諮問事項ヲ律令ノミニ限ラス亦其ノ範圍ヲ台湾ノミニ限ラサルヲ適切トスルコト上ニ述フルカ如シ依テ別紙勅令案及豫算調書ヲ具シ拓殖調査會ヲ新設セラレンコトヲ提議ス

右閣議ヲ請フ

年 月 日

内務大臣

内閣總理大臣

勅令第

號

拓殖調査會官制

第一條

拓殖調査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ關スル重要ノ事項ニ付關係各大臣ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ開申ス

調査會ハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ關スル重要ノ

事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條

外務大臣必要ト認ムルトキハ關東州ニ關スル重要ノ事項ニ付調査會ニ諮詢スルコトヲ得

第三條

調査會ハ總裁一人副總裁一人及委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要ナル場合ニ於テハ臨時委員ヲ

置クコトヲ得

第四條 總裁及副總裁ハ内務大臣ノ奏請ニ依
リニシテ勅命ス

委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ關係
各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣
ニ於テ之ヲ命ス

總裁及副總裁並關係各廳高等官ニ非サ
ル委員ノ任期ハ三年トス

第五條 總裁ハ會務ヲ總理シ會議ノ議決ヲ關
係各大臣ニ具申ス

總裁事故アルトキハ副總裁其ノ職務ヲ代理ス

第六條 總裁及副總裁ハ會議ニ於テ意見ヲ陳
述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第七條 朝鮮總督、台湾總督、關東都督、朝鮮

總督府政務總監、台湾總督府民政長官、關東都
督府民政長官及樺太廳長官ハ會議ニ出席シ意
見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

内務大臣ハ内務省、朝鮮總督府、台湾總督府及樺
太廳ノ高等官又ハ内務大臣ニ於テ適當ト認ムル者外
務大臣ハ外務省及關東都督府高等官又ハ外務大
臣ニ於テ適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見
ヲ陳述セシムルコトヲ得

第八條 調查會ハ議事規則ヲ議定シ内務大臣ノ
認可ヲ受クヘシ

第九條 調查會ニ書記官ヲ置ク專任一人奏任トス
書記官ハ總裁及副總裁ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整
理ス

第十條 調査會ニ書記ヲ置ク判任トス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十一條 總裁、副總裁及委員ニハ一年二千圓以内、

臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給ス

ルコトヲ得

第十二條 總裁及副總裁ニハ内國旅費規則親任

官、委員及臨時委員ニハ同勅任官ノ例ニ依リ

旅費ヲ給ス但シ本官アル者ニハ本官相當ノ旅費

ヲ給ス

附則

本令ハ ヨリニシテ施行ス

勅令第 號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第十四條中「明治神宮造營高書記官」ノ次ニ「拓殖

調査會書記官」ヲ加フ

附則

本令ハ ヨリニシテ施行ス

各種委員會調查

主計局調查課

大正十三年一月十日現在

